

令和6年度 第1回 金剛ふるさとバス利用促進検討分科会 議事録（要約版）

日時：令和7年3月21日（金）午後1時30分～午後3時

会場：富田林市きらめき創造館 2階 グループ活動室A・B

●出席委員 13名

猪井委員、和泉委員、片桐委員、藤原委員、福井委員、平山委員、西田委員、金谷委員、川邊委員、高橋委員、富士野委員、川出委員、北浦委員

●欠席委員 1名

伊藤委員

●公開・非公開の別 公開

●傍聴人数 3名

●会議次第及び議事要旨

案件

（1）金剛ふるさとバスについて

事務局より資料1及び参考資料1、2に基づき説明した。

（2）金剛ふるさとバス利用促進検討分科会について

事務局より資料2に基づき説明した後、フリーディスカッションを行った。

（3）その他

次回分科会は令和7年5月中に開催予定

●資料

別紙 委員名簿

資料1 金剛ふるさとバスについて

資料2 金剛ふるさとバス利用促進検討分科会について

参考資料1 路線図

参考資料2 車両一覧

●議事録（概要）

協議会長挨拶

吉村会長 地域公共交通活性化協議会会長の、富田林市長の吉村善美です。本分科会は、金剛ふるさとバスを将来にわたって持続可能なバスにしていこう、そのためには皆様に乗ってもらう必要があり、利用促進をどのように図っていくのか、について今日の会議をスタートとしていろいろと考えていきたいと思っています。そのため、本分科会はざっくばらんに皆さんからいろんな思いを、思いつきでも構わないので聞かせていただきたい、と思っています。私は今日の会議に向けて「利用者等からの意見について」を見させてもらいましたが、本当にいろんな意見がたくさんありま

した。1つでも2つでもいいので、まずは形にしていきたい、例えば、バスを使って夏休みに何らかのイベント開催、一市二町一村、地域の取組みをまとめながら、バスに乗って地域のイベントに行こうという発信ができないか、また、バスの中に地域の取組のポスターやビラ等を貼って発信し機運を高めていくこと、さらには若者や大学生、今までバスに乗ったことがない方等から気が付いたことを出してもらい、あるいは、バスに乗って車中から見える風景を写真に撮って展示会を開く等、そんなことを議論いただきながら1つでも2つでも形にしていきたい、と思っています。金剛ふるさとバスは私たちのふるさとのバスなので、住んでいる方もそうだし、南河内に愛着を持っていただき、交流人口の増加にもつながると思いますので、ふるさとバスの利用促進に向けて忌憚のない意見を出してもらえるとありがたい、と思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

分科会長挨拶

猪井会長

富山大学の猪井です。分科会の会長を承ったので、私の方で進めさせていただきます。4市町村協議会のように多人数だと発言しにくいということもあると思うので、少人数で皆様が発言していただきやすい場として分科会を設置した、という意図です。すぐに実施できることもあると思いますし、期日を決めて進めていかないといけないこともあると思いますので、それぞれのレベルでのご意見、アイディアを出し合いたいと思います。皆様と闊達な議論をできればと思っています。よろしくお願い致します。

案件

(1) 金剛ふるさとバスについて

事務局

事務局から、議事(1)「金剛ふるさとバスについて」を説明。

(経緯)

富田林市、太子町、河南町、千早赤阪村の4市町村域で、100年近く運行されていた通称「金剛バス」が、公共交通を取り巻く環境の変化に伴う利用者数の減少、乗務員不足等により、令和5年12月20日をもって廃業。金剛ふるさとバスは、これに伴い、4市町村で構成する地域公共交通活性化協議会が実施主体となって、新たに運行を開始したコミュニティバスをいう。

(運行路線)

運行路線は、「北大伴線」「石川線」「千早線」「河内線」「白木線」「さくら坂循環線」「東條線」「喜志循環線」「阪南線」の9路線。複数の事業者の協力を受けて複数のバス車両が運行しており、車両によってはICカード未対応の車両があり、今後の課題となっている。

(利用状況)

4分の3が通勤・通学利用。令和5年度実績で全体の収支率は約50%。収支率が20パーセントに満たない路線があるなど、路線ごとにばらつ

きがある。

- 事務局 事務局から、議事（２）「金剛ふるさとバス利用促進検討分科会について」を説明。
金剛ふるさとバス利用促進検討分科会は、金剛ふるさとバスの利用促進に関する事項を専門的に検討することを目的に、「富田林市、太子町、河南町及び千早赤阪村地域公共交通活性化協議会」の下部組織の位置付けとして設置。
本分科会でこれから検討していく事項
１つめ「どうすれば利用してもらえるか？」
２つめ「どうすれば利用しやすくなるか？」
３つめ「どうすれば利用し続けてもらえるか？」
参考として、これまで実施してきた利用促進の取組を紹介。
１つめ、「広域バスガイド」を運行開始に合わせて発行。
２つめ、運行情報を「専用ウェブページ」で公開。
３つめ、「スマホ定期券」を導入。
令和７年度実施予定の利用促進に関する取組。
１つめ、「デジタルサイネージ」の設置
２つめ、「専用ウェブサイト」の開設
３つめ、「企画券（一日フリー乗車券）」の発売
- 猪井会長 以降、利用促進の話し合いとなり、フリーディスカッションで進めます。
金谷委員 金剛バスの廃止の話からすぐに新規の運行が始まることとなり、事務局、市町村職員には非常に苦勞をかけた。高齢者や通勤者、いろいろあり、どうにかしてバスに代わってもらえたら乗車人数も増える。若い方や通勤者に向けた取り組みもこれからは大事。
- 猪井会長 駐車場の指摘は喜志駅や上ノ太子駅で同様。その駐車場代を上げるとなると所有しているのは民間であり、日本では私権を制限できないこともあって、太陽みたいなことしかできない。駐車場の利用者にあえてバスの利用券を配ってみるのも一考、というお話。
- 高橋委員 私は幼少期に富田林駅から出るバスの沿線に住んでいたが、今は長い間バスに乗っていない状況。ただ、親の住む実家に私の兄弟が帰る際はバスに乗ることもあるので事前に親にリサーチしてきた。単純に、乗り継ぎが悪い。電車とバスの時間があと１分というところでバスが行ってしまう。時間を合わせることはできないのだろうか、と思う。また、実際にバスを利用している方の年齢層はやはり高いのでしょうか。
- 猪井会長 コミュニティバスの中では年齢は低いと思う。通勤や通学の子供たちも乗っており、低くなっている。
- 事務局 通勤通学需要があって、２０代から５０代の現役世代の利用が全体の４分の３を占めている、という調査結果が出ている。コミュニティバスを実際によく利用するイメージの高齢者は、その他の２４％の中にあると思うが、そこまでの細かい分析ができていない。

猪井会長
高橋委員 現役の方や学生が利用者の中心的な年齢層だとした時にどう考えるか。意見やアンケートでは高齢者割引の話も多かったが、実際のバス利用者は現役世代が多い。なので現役世代をターゲットにするのはどうか。やはり高齢者層にもう少し使ってもらいたいという人も多いのか。

猪井会長 高齢者にも使ってもらいたいし、いま使っている人ももっと増やしていきたい。そこに刺さるような施策を両方にやっていかないといけない。他のコミュニティバスに比べて高齢者の比率が低いのであれば、高齢者にもっと乗りやすくなるような施策もやっていかないといけない。

金谷委員
高橋委員 高齢者にとっても乗車するメリットはあると思う。
現役世代に使ってもらわないといけないと思うが、余程のことがない限り変わらないと感覚的に思う。バスの乗り方教室を開催するのは誰に対してなのか。バスの乗り方は親から教えてもらうものだと思うが、ここでの対象は子どもなのか。乗るきっかけを子どもたちに与えるという意味で、一時的なきっかけづくりはできるのではと思う。

猪井会長 他市町村でも狙いはお父さんやお母さんです。ふれあいバスは現役世代が多く乗っており、自分事なのです。コミバスの多くはご高齢の方が中心なので、やはり他人事になってしまっている。子どもを乗せたい30代や40代に興味を持ってもらい変わってもらいたい、ということに期待して子ども向けのイベントをやっていくのもあり。

富士野委員 利用者のほとんどがバスを交通手段の一つとして利用しているので、利便性の向上は大切。利用者を増やすにあたって、ライフスタイルの一部として楽しめるように変えていくことも必要。バスに乗ることを手段ではなく目的にするような施策を検討する必要がある。例えば、その地域の農家と連携した「ファーマーズバス」のような移動市場や、東海バスのNFT活用による利用者増等、バスに乗ることを目的にした施策が面白いのでは、と思う。

猪井会長 バスに乗るという目的を作るということ。乗っていない路線で、河内線や北大伴線というのは収支率が悪く、ここを何とかする必要がある。

福井委員 利用状況については全体の76%が通勤通学ということだが、これは現在市町村が運行している、いわゆるコミュニティバスも含めた数字なのか、それとも旧金剛バスのところだけなのか、どちらか。

猪井会長
事務局 これは、市町村が運行する補完運行も含んでいるのか。
これは、金剛ふるさとバスの利用状況とであり、9路線全体の利用状況ということでお示ししているもの。

福井委員
事務局 では、河南町だとカナちゃんバス、太子町ではたいしのってこバス、があるが、これらはこの資料の中に含まれているという理解でよいのか。
資料の運行路線にある9路線についての状況のため、カナちゃんバスやたいしのってこバスは含まれていない。

福井委員 この分科会で協議する内容は、旧の金剛バスの9路線を検討するものなのか、それとも各市町村の循環バスも含めたものも検討するのか。

猪井会長 4市町村の関わりがあるということで、例えばカナちゃんバスと金剛ふるさとバスの乗り換えの話になると、金剛ふるさとバスだけで頑張るの

ではなく、カナちゃんバスややまなみタクシーにご協力いただきたいところはお願いすることになる。基本的にまずは利用促進、とすると金剛ふるさとバスの利用促進を考えましょうというところ。

事務局

その通り。

猪井会長

基本は金剛ふるさとバスについて考えていくということ。

福井委員

ありがとうございます。

猪井会長

まずは、駐車場について考えないといけない、若い方、子どもたちを対象としていかないといけない。目的地をちゃんと選んでもらえるようにしていかないといけない、という意見をいただきました。

西田委員

先ほど、北大伴線の収支が悪いことを知りびっくりした。また北大伴線がなくなっても困る人が少ないことも改めてわかった。先ほど電車とバスの乗り継ぎが時間がないという意見があったが、僕らは車椅子なので、乗り継ぎが悪いと困る。エレベーターでしか行けない時は、それだけのロスが出てバスを1便逃す、電車であれば環状線で例えると2、3便遅れる。いつも改札では15分ぐらい待たされ、JRであれば基本のマニュアル通りにしか動いてくれないので困る。そういうことがないように、やはり乗り継ぎを考慮することは必要。そして、今はキャッシュレスも必要。また、バスの運行時間について、今の時刻表では1時間に一本になっているので、どうにかならないかと思う。乗ってもらうには便数を増やさないといけない。1時間も駅で待つことになるのならやめとこう、となる。

猪井会長

旧金剛バスは30分に1本あって便利だった。大阪北部よりもかなり運行本数があった。よく頑張っていたが、蓋を開けてみると経営が厳しく、1時間に1本でも運転手を確保するのが大変。便数を増やしたいが、また9路線から選び直しをしないといけなくなり悩ましい。それでもぜひ考えていきたい。将来的にどうなるかということは考えていかないとダメだ。

和泉委員

私自身は南河内、特に富田林、河南、太子、千早の地域は、観光という観点や審議会等々、密に関係を持っており、研究室も富田林市、太子町、河南町とアドバイザー契約を結んでいて、観光という観点からお手伝いしている。そういう点を踏まえていただき、思うところを発言したい。私は、バスを利用しない人に関心を持ってもらうことと通勤通学以外の利用者の促進を進めていくこと、これはこれまでにない取り組みの方向性だと思うので、この分科会で進めていくことができないかと思っている。例えばバス車中の絵画展や文化サークルの展示会、路線上の魅力をPRする際は地域の住民の方々が登場する仕組み、等が必要と思う。また地元小学生のバスアナウンスも良いと思う。地域が育てるバスのイメージ、バスを利用しない人にも関心を持ってもらう、という取り組みが必要だ。もう一つは観光。観光の観点で交通というところから考えることができるのが、観光という分野にとっても新しい局面を迎えることができる、と思う。そして、一つやりたいことがある。夏休みに地域の子どもたち向けにミステリーバスのイベントをしたいと思う。例えば、

富田林や喜志の駅前でカードを引き、カードで引いた路線のバスに乗り、その路線のバスで何か仕掛けがあって、1日楽しむことができるようなイベントを開催し、その日は何回乗り降りしても無料という1デーパスを作って、ミステリーパスのようなことをぜひ実現したいと思う。この方向性で認めてもらえるのなら、私の研究所の学生も投入するし、夏ぐらいに形にできるような方向性で持っていくことができれば、と考えている。それと連動して、各市町村の観光担当が一つのテーブルに集まる機会も欲しいと思う。市町村の観光担当者が集まって観光の話をしていく、そんなテーブルがあっても良い。このミステリーパスの企画は、外向けにこんなことやってるというのをPRする観点からも、ミステリーバスでキャッチーな見え方がするのではないかと考える。まず形にしてみませんか、という提案の方向性の中で、ミステリーバスや4市町村や皆さんのご協力ご尽力のもとで形にできないかな、というところです。

猪井会長 ミステリーバスというのは、バスをその時々で貸切のように仕立てようというのではなく、金剛ふるさとバスに乗ろう、ということですね。

和泉委員 既存の路線バスで、ということ。

猪井会長 近鉄バス様、南海バス様に伺います。フリーチケットみたいなものが必要と思うが、金剛ふるさとバスの領域だと2社あるので9路線がフリーで使えるチケットって発行し得るのか、また、それは要検討で、やるためにはどうすればよいのか。ここは考えないとだめということがあれば。

片桐委員 スルッとKANSAIの3dayパスとか、何社か共同でこのチケットで乗れるというのは実施したことがある。そのシステムのものの構築で経費や手間もかかるのではないかとすることがあるが、あるのはある。

藤原委員 基本的にコミュニティバス路線なので、その種の乗車券は4市町村の協議会で発行されるものと思う。それを利用するにあたって弊社の運用は対応できるが、弊社の路線ではないのでその企画は私どもがするものではない、と考えている。一般乗合路線として届け出を出しているものなので、その事業計画に基づいて運行させていただくのみと、お答えする。

猪井会長 そうすると、資料にあった、和泉先生の案を実現しようとする、企画券1日フリー乗車券があればいいということだが、これは令和7年度でやっていくといつぐらいにできそうか。

事務局 この乗車券の仕組み自体はそんなに期間はかからないが、重要なのはこの乗車券を活用して、普及を促進していくべきところをあわせ持つて考えないといけないので、その辺りを含めて議論をしていく必要がある。この乗車券を一般の利用者や、沿線の利用者に使ってもらうことは、仕組み自体は難しくはないと思っているが、どう使ってどこへ行っていたかというところをもう一度考えていかないとなかなか普及しない、ということ懸念している。

猪井会長 そこは和泉先生が得意とする観光分野なので行き先のことは考えていただけたらと思う。この企画券が始まる時にぜひ、最初の走り出しとしてイベントがあった方がいいと思う。令和7年度事業で子供が対象だから夏休みがいいのか。

- 和泉委員 教育委員会やいろんな部署にまたがる話になるかもしれない。観光客もそうだが、まず地域の子供たちにバスを楽しんで欲しいというところ。教育委員会を通じて市町村の学校現場にダイレクトでチラシをまく、そういうことができないかと思う。地域の子供たちに夏休みの思い出の一つとして、このふるさとバスを活用してもらおうというイメージが私の思い。うまく行きそうなら観光客向けの展開を今後考えていけばいいと思う。ツアーではなくコースを作ったらいいいのでは、みたいな意見がどこかにあったと思うが、それも含め観光客に展開していけるような広がりがあるのではないか。それを確かめる意味でも、まずは地域向けに企画的な部分で、形にすればよいと思う。
- 猪井会長 和泉先生、面白いのでぜひ実施を、と思う。この会としてはいろんなことを試していった方がいいと思う。大学の先生としては、いろんなことを試して、その中でこんなことやった、あんなことやった、次こんなことやろう、ということを出して行って答えを探していく、ということをしざるをえないのが現状。ぜひやってみるべきと思っているので、取り組んでいただければと思う。実際にやっていくと進展報告があると思うので、ぜひ和泉先生や私も協力する形でミステリーバスをやってみたいと思う。というところで異議はないですか。
- バス、フリー乗車券使って、いろんなことをやってみましょう。近いところでは枚方市がバスでスタンプラリーをやっており、もう 30 回ぐらいになっている。今年も 5 月にやる予定。この取り組みを一度見てみたらと思う。まだ今年の日程が出ていないが、取組みや面白い利用促進を、見ていければと思う。枚方ではパスを手に入れてスタンプを集めてもらえる商品を出しており、その商品は地元の企業が出してくれている。最初から出してくれたわけではなく、やっているうちにしてくれるように変わっていった。ボトムアップで作った会議の取り組みであり、同じ河内の良い取り組みでもあるので、ご案内させていただく。ぜひ見学会もこの分科会として企画していきたいと思う。
- 川邊委員 利用者の増大を図るということで、キャッシュレス云々の話が出たが、近所で喫茶店での支払いをキャッシュレスのみにしたら、近所のお年寄りがキャッシュレスなら行かない、キャッシュレスならカードを作る必要がある、と。キャッシュレスと現金の併用がありがたい。
- 猪井会長 現金支払いは認めないとダメ。現金での支払い不可はバスではダメと思うので、現金払いは残ると思う。むしろ現金支払いがあってそこに追加でキャッシュレスというのは入れていく、という形。現金支払いの廃止はないと思うので便利にしていきたいと思いますというのがバス側の方針。
- 富士野委員 バスに乗っていてよく聞かれるのが、このお寺に行きたいがどのバス停で降りたらいいのか、帰りにそのバス停に何時に行けばいいのか等。この地域に文化財やお寺がたくさんあり、会社員、学生というのが収入源になっていると思うが、実際、それ以外の高齢者は、スーパーや病院等の利用がありバスは生活のインフラになっている。地元の魅力を P R するなど、その掘り起こしをしていけばプラスになる可能性あると思う。

猪井会長 どういう媒体で出していけばいいのか。紙媒体なのか。先ほどの話だとホームページももう少し綺麗なものを作っていきたいということがあってそこに観光情報も載せていく、という思いもあったのですが、交通事業者さんお願いします。

片桐委員 会社員公務員 52%、学生 24%、合計 76%という利用状況だが、その他の公務員会社員、学生、は通勤通学なので、どうしても利用せざるを得ないので乗っている、便数も少なく不便なバスの時間に合わせて乗っている、という形でご迷惑をかけており、この方々の利用状況を伸ばそうと思えば、この時間帯に 5 分に 1 本、10 分に 1 本くらいのことをすればもっと増えるとは思いますが、バス会社としては乗務員不足があり増やすのが難しく、増やせば増やすだけ経費が膨らみ市の負担も増えるので、なかなか難しいところ。またその伸びしろが少ないと思う。そこでその他の 24%の利用客の話になり、ここはまだまだ伸びしろがあると感じており、この地域は魅力的なところがまだたくさんあると思う。このバスに乗ったら行けます、行ってきました、美味しいもの食べてきました、こういうところ見られました、というアピールを市政便り等に載せたらあうか。そもそも市政便りを見てる人が少ない、見たことない、という意見も多く、やはり X、インスタグラム、等の SNS は違うかも。電車に乗られる方の殆どは車内でスマホを見ている。そういう中で情報収集ができると思う。なので各市町村の公式アカウントで、市の職員の方や若い方が、電車やバスに乗って、ここで美味しいもの食べました、バスはこうやって乗りましたとか、そういうアピールがいいのではと気が付きました。

猪井会長 ありがとうございます。SNS で発信する、というところだが、大学もインスタグラムに上げるがなかなかコメントを書かない。書く仕組みっていうのをうまく作らないとダメだと思うが、和泉先生にお伺いしますが、学生に書いてくれと言って、バイト料まで出してというのは良くないかもしれないが、取材費出しますと言ったら学生は、インスタに書いてくれるんですか。飯食いに行ってくれた分、出しますと言うとどうでしょう。

和泉先生 喜んで行くと思う。

猪井会長 インスタも書いてもらうように考えるというのは一考。先ほどのお 2 人の話でもこの地域内には偉人達のお墓があり、そこを回ってみて写真撮ってきてアップしていくというのもやっていけばいい。ただそれを役所の人間で全部まわしていくのはしんどいので、いろんな大学の人で、金剛ふるさとバス特派員制度とか作って、その費用をうまく使ってこれで昼飯食いに行けるよ、って学生に話したら喜んで動くと言っていた。そんな話を事務局と一緒に考えて上手く SNS を発信していく方法が必要。無料で書いてくれというのはかなり難しい。

そういう意味では、SNS 発信したらちゃんと見て“いいね”しろよってなる。ちょうど一昨日の協議会で、大学の学科のインスタがあるのだが“いいね”してるか、って言われて焦ってインスタで“いいね”とい

う機能があるのを知ったのですが、そういうところを協議会でお願いをするということ。学生も一緒に作っていき、この制度設計は、事務局と相談しながら、SNSをうまく上げていく方法。何か、たくさん上げてもらう方法を考えていきたいと思う。

高橋委員 今までの話の中で、和泉先生にご提案いただいた周回できるような仕組みはいいと思うので、段階的にどこをターゲットにするのか、ペルソナをどうするのかというところで、まず地域の子供ということであれば、それに対応するような策を考えたらいいと思う。行く先々の目的地は必要で、ワールド牧場や水分神社、叡福寺等いろいろあるが、子供がターゲットで夏休み中に体験を描けるような、一緒に芸大生と絵を描いたり工作する等、そういう目的地をそれぞれ置いたら、周回イベントの意味ではできると思う。地域の人が、新しい目で見えて行ってみたいと思うような仕掛けがあるのなら、そこで体験や映えるような写真を撮れる等、目的地の設定は要と思う。枚方市のイベントでは商品を企業が提供してる事例があるし、子供対象のイベントだと公民連携という意味で何かしてくれそうと思う。

猪井先生 美原区での取り組みで町内の工場では出してくれた。地元にはいろんなものがあり、ハルカスで売ってる苺は実は河南町で作ってる等、いろんなもの持っているということを聞いた。そういうご協力をお願いする。

和泉委員 高橋委員のおっしゃったのはその通りで、こちらから当然バスの利用というところに仕掛けていくわけで、この路線沿線上のいろんなご商売されてる方にお声掛けし、その日はこんなことするので双方向で盛り上がっていくような、そういうイベントづくり、企画づくりが、有効と思う。また広く見せていくことも重要。何か別のところで火種がついて、沿線の皆さんに飛び火していくようなことも意識して、作っていくことができたらと思う。

猪井会長 私は枚方に住んでおり、息子が8歳と10歳で、数年前に息子を連れてバスのスタンプラリーをやった。その時のテーマはスイーツ巡りだったが、できる限り手間かけずに回そうということで、スタンプの設置場所はお菓子屋だった。親が付いてると、お菓子屋に行ってスタンプだけ押してもらうわけにいかないからお菓子を買う。しかも、いつも買わないわらび餅等を買って息子に食わせたりした。そのうち地元になんかお菓子あるんだというのを知った。私はもともと大阪市内に住んでいたのだから枚方に引っ越して、スーパーに入るが身近な店には入らなかった。こういう機会でもなければ入らなかったのだから、地元の方をお願いをしながら巻き込んでいくっていうのは一考だなと。何か商品を出してくださいと言うだけではなく、そんな巻き込み方というのはありで、いろんなことを巻き込みたい。人は、やってみて、ものを見せないと動かないのだろうなと思う。最初の1年目からすべてを盛り盛りで地元を巻き込みましょうとまではいかないにしても、まずやってみるってのは一考かと思う。

猪井会長 これは乗車促進でお願いしたいこと。4市町村にお願いしたいことです。利用してもらうにはダイヤを知ってもらう必要があり、利用促進ガイド

を作ったのです。市民の方に配っていただいたと思うが、一番肝になるのは転入される時。最初に使ってもらわないとダメなので、ぜひ各4市町村で、転入時のキットを持っていると思うので、キットに促進ガイドを混入してください。要は最初に、バスがどこを走っているということを転入者の方に知ってもらう。で、定住者の方に言われたのが、この模式図が大事。これは地元に住んでる方は模式図になっていても分かる。ここに石川が通ってて、どこにお店屋さんがあるってわかっているが、初めて来る人にとっては、手元にある地図、9路線、これがわかりやすく、要は地形図と一緒にになっている。土地勘がない人にとって、初めて越してくるとこういう地形図がありがたい、と言われた。地形図みたいなものを冷蔵庫に貼ってもらうという意味では、地形図とダイヤ、この二つをセットに。すぐできることとして、各市町村さんの住民転入窓口で、ぜひ配ってください。最初の一手として引っ越してきてバス使うという気になってもらわないとダメなのでぜひ利用促進として、市町村同じ対応でぜひお願いしたい。交通の専門家として編入キットはぜひお願いします。

事務局 次の作製時はその形で作製させていただき、それまでは挟み込みで対応させていただきます。

猪井会長 引っ越してきて最初にスーパーはどこにあるのかと探した。枚方に越したときに地図見ながらどこへ行こうかというときに、バスで行けるということを最初に探す。本当は、引っ越しの検討の際に、ここはバスが走っているところですよと言ってくれるところに配るってのは一考なのです。バスが使えるところですよと言ってくれる不動産屋にばら撒くのも一考なのです。実はよくある話だが、コミバスを運行してどこが一番喜んだのかと言うと不動産が一番喜んだのです。自分のアパートがバス停から一分と書けるようになったので喜んだのです。すぐできることとして、ぜひこの4市町村として利用ガイド、バスガイドを転入者に配るというのはぜひお願いしたい。他にこんなことをやったらどうっていうこともあれば、お話いただけますか。

川出委員 利用者属性は、全体で76%が通勤通学で、その他が24%ということなので、やはり通勤通学の方に対するアプローチを強めるほうが、よりいいのかなと。数字を見た時に思ったが、近鉄バスからも通勤通学の方が伸びしろが少ないのではという話もあり、数字としては、地域としてはどちらの方が今伸びしろがあるのか、感覚的なものって何かあるのか？

猪井会長 コミバスはやはり「その他」が多い。地域の足をなくすと通学や通勤ができなくなるので、ここの路線を維持しないとダメだった、の意味でここは特徴的だと思う。普通は、路線バス会社が考えるような案件を今は市町村が考えており、コミバスの利用促進は高齢の方対象が中心、というところ。この若手の高校生に何かできればな、というところですが、ツイッターをあげてもらおうでいいのです。昔、全但バスが高校生の利用客に、何が欲しいですか、とアンケートしたことがあり、出てきた答えは、車中でヘアアイロンを使いたい、でした。バス会社に聞くと、使わ

れたらバッテリーがぶっ飛ぶ、と実現はしなかった。高校生や学生が欲しがるものは必要ないという意味ではないのです。また、会社員は頻度よくたくさん運ぶということを求めるでしょう。費用を安くするとしても、会社から通勤定期代が出ているので、会社の負担が減るだけで、会社員には効かないと思う。別の返し方のほうが嬉しいと思う。終バス 1 本増やすほうがありがたいサービス、と思う。先ほど、和泉先生や高橋委員がペルソナを考えないとダメと言われたところ。行政が考える利用促進からすると、普通のバス路線のバス会社が考えるような、利用促進を考える必要がある、というところ少し独特。アプローチが必要な先が、会社員とか学生が多いところも、アプローチしてよいのではと思う。会社員はお金でも変わらないだろうし、難しいだろうと思う。学生は逆に親御さんが交通費を負担しているので、お金の施策が効くだろう。そのあたりが独特だと思う。

川出委員 その他の部分を増やすのと、会社、特に学生、そこを二つに分けて考えていかないといけない。通常商品売るとなると乗る機会を作り、一度乗っていただけると、実は思ったより快適だったというところで、利用者が増える、という施策もよくあるとは思いますが、乗ってもらい、乗るきっかけを作る施策、やり方と、一度乗っていただいたら次また使ってみないと思わせるような施策を、今後一緒に勉強させていただきながら、考えていきたいと思う。

猪井会長 交通事故を分析する時に、認知、判断、行動、と分ける。認知に問題があるのか、認知というのは交通事故の信号をちゃんと認知したのかと。判断というと交通事故。これで信号を右左折できるのかと判断し、行動というのはハンドルの切り間違え、というところ。これと一緒に実はバスも、認知がまずいのか、要はバスってというのが存在してるのか、判断で高い安いというんのがちゃんと判断されてないのか、行動では乗りにくい障壁になってるものがあるのか、というところ。その何があるかというのは分けていかないとダメ。当初、私はすぐやりましょうというレベルというお話もしましたが、それでやってるかというところと、先ほどの認知、判断、行動、それぞれの取り組み、は全部やらないとダメです。足りないところはないのか、という意味では、この分科会でやった取り組みがどの辺りをカバーしているということをちゃんと記述して、やってないところや足りてないところはきちんと整理していかないとダメという意味です。その意味では認知は、パンフの配布はお願いしたい。新しく入ってくる人にやってください。これで認知の第一段階はやりました、次の段階の認知やりますかというところもあるので、そういう整理をしていかないとダメと思う。

北浦委員 どうすれば利用しやすくなるかという観点でいうと、乗り継ぎの話もあったし、役場の職員の話でも、利用者は結構多いと思っている。もう 30 分遅ければ、早ければ、という声は聞いたことがあるが、あっちを立てればこっちが立たずというのものもある。どの時間帯が一番喜ばれるのかということを探ることができないかな、とも思う。どうすれば利用しても

らえるかという観点から言うと、バスに乗ること自体が目的にならないかという話もあったと思うが、変わった車両をたまに走らせる等、それぞれの車両を入れ替えて走ってみるとか、そういう話題づくりというのもありかなと思う。それともう1点、非常に不便なところで、その不便さを逆に売りにするというか、のんびりしたイメージを打ち出していけないかと思う。その中で、バス停からバス停へのウォーキングコース等、いろいろと巡りながら違う路線で帰ってみましょう、みたいなことを思っている。

猪井会長 金剛バスの車両は、実はマニアにとると珍しい車両で、西日本車体という珍しい車両だそうで、もう生産中止になっており、残ってるのが金剛バスの車両ぐらいしかないらしい。皆さんにとっては普通かもしれないが、車内に入って後ろがロングシートになっていますが、金剛バスで後ろの方にあるってすごく珍しいらしい。だから、先ほどのXでも、ここに載ればマニアの人が食いついてくれるのでは、ということがある。いろんな人に参加してもらえば、いろんな方がいるので、見てもらって、書いてもらおうとよい。いろんなところを見つけてもらおうということは大事と思うので、ぜひ探してもらおうと思う。

和泉委員 最後に北浦委員がおっしゃった、バス停とバス停をつなぐウォーキングルートみたいな話は面白いと思う。バスと自分の足を使って、半日、一日で回れるコースを一つ作れたら、それは面白いと思う。

猪井会長 まとめをしたいと思います。

駐車場どうしますかというところ。これはいずれ考えないとダメと思う。乗り継ぎをきちんとしていきましょうというところはしていきましょう。で目的地をちゃんとしていきましょう。目的地を設定すると情報発信が繋がって、もう1個テーマ設定しないとダメでしょう。歴史を探るやグルメを探る等としていくと、それぞれの市町村で思ってるものが出てくるので、テーマ設定していかないとダメと思う。ペルソナをきちんとしていましょうというところ。その絞り込みをすると、議論として出たのが利用者以外のところの促進が出てたが、一方で、高校生や通学の人にアプローチすることもあるということだった。車内で絵画展したら良いのではないか、ということも。確認しておきたいのは、バス車内でアナウンスをしてもらうことはバス会社として可能か。これは法令的にどうなっているのか。案内には法制限があるのか。

藤原委員 結論から言うと可能です。1例だけ言うと、南海バスで今運行している路線だが、プロのバレーボールチームの路線の会場まで運ぶ路線があり、そこは選手の声で案内をしているので、可能です。

猪井会長 富山県の高岡では、立川志の輔さんが地元なので路面電車内でしゃべっている。地元で小学生の子達にしゃべってもらうことも可能で、それは録音しているもの。生放送は厳しいです。間違える可能性もあるので。

藤原委員 もう1例を出しますと、河内長野市のモックルバスというコミュニティバスは、子供の声で案内しているので、それも事前に録音しないと無理だが、そういった形でやらせていただいている。

猪井会長

子供にアナウンスしてもらおうというのも面白いが、子供に限らず、しゃべりたい人でもいいと思う。各市町村で、ご高齢の人がしゃべってもいいと思う。いろんな人にやってもらえばいい。あとは夏休みに向けてミステリーバスをやっていきましょうというところ。バスに乗ってどこへ行くかということのを整理しましょう、そして、魅力的なところをきちんと発信しましょう。SNSやInstagramというのをやっていきましょう。SNSは役所の人がある仕組みは考えたいと思う。ほかは、変わった車両を走らせるという話があったが、いま走ってる車両が実は変わっているという話は先ほどさせていただいたところ。いろんな忘れ物があるが、この分科会ではいろんなことを提案して、いろんなことをやっていきたいと思う。だからこそ整理をした上で、出てきたことを整理して、手が付いているのか、手をつけなかったらなぜ手をつけなかったのかというところの理由を整理していくことが大事だと思う。そういう意味では和泉先生は発言された責任でやりますと仰っていただき大変ありがたいが、そういうところも含めぜひやっていきたいと思う。うちも遠い北陸の大学だが、貢献できるときは貢献していこうと思う。ぜひやっていきたいと思う。

というところで、ざっくりでしたが少なくとも、今思いついたのは三つ。ミステリーバスと、アナウンスとあと、SNS発信、はやっていきましょう。あと乗り換えとかはきちんとやっていかないとダメと思うところ。あとキャッシュレスになって使いにくいというのはわかるが、逆にそれを使ってもらうために富山の地方部ではスマホ教室を大学生が行ったりする。要は必要がないと使わないので、せっかくバスで払わなあかんのでスマホを使ってもらいましょう。孫としゃべるためにスカイプでしゃべる等の教室をやっており、それだと地元の人使ってくれた。防災で行政無線の代わりにタブレットを渡しているが、使わないと使い方も理解してもらえず、ずっと使わないと使えないままなので、ちょうどいい機会だと言ってスマホ教室を富山大学でやった。同じことを先々ではやってもいいかなとも思う。

ざっくりだが少なくとも三つは進めていこう。先ほどのミステリーバスと、アナウンスと、SNS、というのをやっていきましょう。やるということによろしいですか。はい。ありがとうございます。

進捗についてはこの会でご報告するとして、できる限り手をつけて、次々にやっていかないとダメと思う。乗ってくれなくなる、興味がなくなっていく、地域の方々が協力してくれなくなる、というのは大変怖いところ。事務局に問います。こんな感じでいいですか。

事務局

はい。

猪井会長

ざっくりのまとめになって大変申し訳ないが、そういうところに手をつけていしましょう。

和泉委員

観光担当者が集まってもよいか。

猪井会長

観光担当者を集め、会議しましょう。そしてこの分科会に集まって皆さんで議論しましょう。これを含め四つということ。

枚方のスタンプラリーは分科会として見学会を設定し、地元で行っていることを見に行きます。皆さんで参加していいと思うが、参加するだけではなくて環境ネットワークの人や枚方市の元土木課の人で頑張った人がいるので、その人達に、何考えて進めたのかや、何を苦労したかということ踏まえて見に行こうと思う。

イベントの日程もまだ発表されていないので、調整して事務局からご案内させていただければと思う。

この会議で今出た内容の結果を来週の協議会で報告する。そのうえで来年度も頑張る、ということ、次のタイミング、次の協議会、この分科会はいつか

事務局 予定だが、5月の連休後ぐらいになるかと思う。これから調整のうえ決定する。日時だけでも取り急ぎ、早めに連絡する。

猪井会長 具体的に、4市町村の協議会は、5月20日ですね。

事務局 はい、それよりも前にしたい、ということです。

猪井会長 ゴールデンウィーク後から5月20日までで調整したいと思う。

会議について、もし何か抜けていたり、喋り足りないということであれば後で事務局へ。何らかのものにしていかないとダメというところを、できるところはやっていきたいと思うので、ぜひ前向きにご協力ください。それでは本日の議事は以上です。

以上